

まずは両会長、両政府機関の方々、その他関係者の方々に感謝いたします。竹中様のお話が今ありましたが、大きな経済的シナリオでした。私はもう少し実質的な話をさせていただきたいと思っております。それによってこのビジネスグループに少しでも貢献できるかと考えております。お互い素晴らしい賞賛の言葉を投げ合っています。しかしそういった言葉は数字にして表すことが出来ないものであります。私たち自身の両国の貿易の数字を見ますとお互いがサプライヤーとして、23位、24位というように他の国と比較してもあまり高いものではありません。そして貿易のレベルももちろん世界的な経済危機が近年あったことは否めませんが、貿易の数字的なものが下がっているという現状があります。このビジネスグループが具体的に何をするかという数字を挙げるということも大事なことだと思えます。互いの実力にあった、両国の貿易を挙げるべきだと思っているわけです。先程の話のように日本とイタリアお互いのいいところの業種を取り合って、連携を取り合っていく、そういう意味で業種を特定することも大切なことです。イタリアとしましては、「メイドインイタリー」という伝統的な業種もよろしいかと思えますが、一方では航空宇宙学やバイオナノテクノロジーといった再生可能エネルギーや環境保護といった日本が先進的な技術を誇っているような部門に起きましても、両国の協力というものが今後開けていくのではないのでしょうか。それによってさらに両国の協力の可能性は格段とあがるのではないのでしょうか。ですから、ウルソ副大臣の話にもありましたが、イタリアへの輸出の4分の1はこのような伝統的なものであったと思えますが、昨日と今日、色々なお話し合いをワーキンググループでいたしましたし、外のお店のマーケットリサーチもいたしました。インテリアやアパレル、食品といったところでイタリアの存在といったものは日本で強く見られました。しかしそれでもまだ、イタリアの存在するブランド数はそんなにまだ多くないと思えます。昔からの大きなブランドは存在しますが、メイドインイタリーの拡大はまだまだ出来ると、マーケットを見ていて思いました。ですから、維持するだけでなく、拡大していく努力が必要だと感じております。しかしマーケットの障壁としても難しいものもあります。またちょうど努力をしていたときに去年からこういった経済危機も始まってしまいました。この経済危機がなければもう少しお互いの取引の数字も上の方に上がっていたかと思えます。

また、もう一つ考えるべきことはイタリアに対する関心というものが日本の方々の上の方のレベルの方に限らず、もっと庶民の人たちにも広げていくような協力ができるのではないのでしょうか。またお互いができる協力ももっとあるように思えます。それについては具体的な予定もあるようです。一つは日本のビジネスマンのミッションを組んでイタリアのフェアなどに参加いただく、以前からもそういったフェアには来ていただいておりますが、フェアだけで終わるのではなく産業集積地も見えていただく、というミッションを日本からお招きしたい。イタリアの製造業の現場を見ていただき、その中からどのように質のよいものが生まれるか実感していただきたいと思っております。ですから表面的なものを見て、面の美しさだけを見て関心するのではなく、私たちの商品の表から見えない、中にあるクオリティというものに気がついていただきたいと思っております。ウルソ副大臣がおっしゃったようにビジネスグループは今年度の終わりごろ、外務省との協力によりまして大きなミッションを組む予定です。将来に視線を向けたような国であります。最近ではイタリアから見ますと少

し関心が薄れてきました。周りの新興国の方に目が行っていたかもしれませんが。そんな中でも一度日本にミッションを組もうということになっております。そして2010年にも中国にもミッションを送る予定はありますが、この時も中国と日本、両方を回るのが良いと思います。産業の新しい現実、新しい企業をイタリアにもお連れして、こちらにある成功の礎がなんであったかを教えたいと思っております。

このような中で一つ気がついたのですが、日本の若者たちにも注意を引きたいと思っております。イタリアの伝統的、文化的な部分を若い人に知ってもらうのが良いかと思っておりますが、今後若い人たちの消費者というのもまた変化があると思っておりますので、私たちもそういう人に関心を持って、研究していくべきだと思います。私たち自身も刷新して、チェンジしていかなければなりません。クオリティだけでなく、刷新して新しいものを商品にこめて提案していきたいと思っております。そうすることで今後やって行きたいと思っていることがあります。日本のような相手と致しましては中長期で考える必要があります。私たちイタリア側としてもそうですが、日本の方々も是非この両国の交流の中で中長期的な計画を練っていただきたいと思っております。皆さんの方は期限をきちんと決めて、守っていただいておりますが、今朝他のスピーカーの方からも出てきたことですが、お互いの貿易の中でまだ障壁が存在しております。イタリア側からしますとそれは日本にいらっしゃるビジネスマンの方々の滞在許可証がなかなか取りにくいということがありました。しかし、最近これはだいぶ改善されました。もう一つの現実といえますのは、日本の障壁としましては関税の障壁もありますし、クォーターといった関税外障壁もあります。あと、スペック上の技術的な要件が難しい、もう少し国際的なスタンダードに近づけて欲しいということもあります。そうすることによってイタリアの製造メーカーにとってはより日本の市場にアプローチしようという、そういった気持ちを駆り立ててもらえるわけです。とにかく両国で改善すべきことはまだまだあります。イタリア産業総連盟といたしましては両会長に感謝申し上げます。このあたりで両国の歩みの形を変える必要が出てきたかと思っております。私たちイタリア側メンバーと致しまして、イタリア側の組織が効率的に動いているということお話しできることを嬉しく思います。考え方がきちんとした日本とこのようにやっていく上でイタリアのシステムもより緊密化され、より反応の良いものになってきたと思っております。日本との付き合いによって改善できたとお話したかったわけです。結論と致しましてイタリアと日本はドイツとあわせて世界においても特に製造業に秀でた国です。この点を大事にしながら今後とも未来に向けて私たち自身発展して伸びていけるように、将来の展望を描いていくべきだと思います。特に革新的な技術を必要とする分野での協力というものが良いかと思っております。この会合は昨日もありましたが、共通の認識として感じたのは中期的なもので責任もはっきりさせて計画を立てて進めていくということです。私は創立時点からのメンバーとして今後とも一生懸命このグループの役割を果たしていきたいと思っております。そしてイタリアではイタリア産業総連盟がビジネスグループに協力していきます。ありがとうございました。